

栄養収量の高い国産飼料の低コスト生産・利用技術の開発

わが国の畜産・酪農の競争力を強化するため、飼料の国産化を進め、輸入飼料への過度の依存からの脱却を目指し、価格・栄養面で輸入飼料に対抗できる国産飼料の生産・利用技術の開発に取り組みました。

1. CCM等自給濃厚飼料の低コスト生産利用体系の確立

子実収量、子実乾物率、機械収穫適性等から “子実用トウモロコシ生産・利活用の手引き”の作製

北海道向きに「KD301」、「P9027」、「KD420」
東北向きに「SL0746」、「34N84」、「TX1334」
長野向きに「P9400」、「36B08」、「34N84」を選定

保存容器が異なるHMSC調製
作業体系と生産費の試算

フレコンバックは51.1円/TDNkgで最も安価



フレコンバック

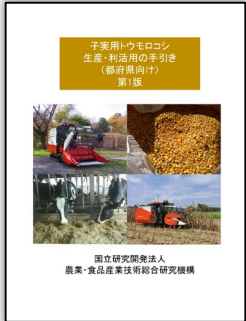


ポリ樽



プラスチックコンテナ

開発した技術を反映した手引き



2. 高栄養多収牧草品種の育成及び栽培利用技術の開発

高栄養で多収な牧草新品種の育成

夏枯れに強く多収な

温暖地・暖地向き

オーチャードグラス「那改1号」「東北8号OG」

糖含量が高く耐病性に優れる

早生オーチャードグラス

トラクタによる踏圧に強い

アルファルファ

「北海8号」



那改1号



東北8号OG



北海8号

高栄養牧草品種の栽培利用技術

①オーチャードグラス中생新品種「えさじまん」の利用法

・サイレージ給与により標準品種より産乳性が向上

・放牧において標準品種より草量と採食量が多い

②アルファルファ新品種「ウシモスキー」の適正播種量の解明

・標準品種に比べて播種量を4割削減できる

新品種は実証栽培試験等により

普及を推進

3. 飼料用トウモロコシの安定多収を可能にする品種育成と省力・低コスト栽培技術の開発

・耐湿性新品種「那交907号」を育成及び新系統「那交919号」を開発
・各地域においてトウモロコシの不耕起・簡易耕栽培を活用した周年作付体系と施肥管理法を開発

・子実収量、子実乾物率、機械収穫適性等の観点から、温暖地（関東北部）でのトウモロコシ子実生産に適した品種として極早生品種「LG3457」、「P9400」を選定



子実用トウモロコシの収穫調製技術の実証



成果をまとめた技術パンフレット

4. 高糖分高消化性WCS用稲の多収栽培技術と乳牛への給与技術の開発

近年育成された、消化性が高く、サイレージ品質の良い飼料用稲品種「たちすずか」「たちあやか」「つきすずか」「つきことか」について

- ①東北、関東、東海、九州の各地域で多収（乾物収量1.3～1.5t/10a以上）可能な品種の選定と栽培技術を開発
- ②乳牛への推奨給与メニューを策定
- ③栽培暦を綴じ込んだ手引き作製



今後、現地検討会や講習会等で「手引き」を活用した普及活動を推進



栽培暦を綴じ込んだ手引き